

[様式 9 - 1]

## 福祉サービス等第三者評価結果

## 総合評価

受診施設名	相愛保育園	施設種別	保育所
評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」		

平成25年6月3日

## 総 評

相愛保育園は、昭和24年に戦争孤児を対象に婦人会が中心となって始めた保育を前身とし、昭和29年に前理事長が個人資産を用いて保育園の運営を開始されました。昭和54年に社会福祉法人格を取得された後は、舞鶴市や地域からのニーズに応える形で定員を増加させ、平成5年には新しく園舎を改築して現在に至っています。保育園を開設した当時は兵舎を改造して園舎を造り、また鍋や釜を持ち寄るなど、満足に保育ができる環境になく大変なご苦労があったとお聞きしました。そうした状況の中でも、母親が就労せざるを得ない事情に応え、子どもたちの成長を育む保育を行ってこられました。このことは、「人間形成を確立する重要な仕事であることを自覚し、母親にも勝る愛情で子どもの最善の利益を考える」との理念に活かされ、現在にも受け継がれています。

日常の保育では、海に近く河川が多い舞鶴市の地域性から、子どもたちを水難事故から守ることを目的としてスイミングを保育に取り入れ、着衣水泳体験など子どもの安全に考慮した取り組みがされています。また、広い園庭を使用して専門の指導者による運動遊び(体操)を実施し、スイミングとともに子どもの体力づくりを図っていました。年長児への保育として、永年にわたり日本太鼓やマーチングを取入れており、地域の伝統ある祭りや歓迎セレモニーなどに参加し、子どもたちに伝統行事や社会的事業を体験する機会を設けることで、人間性を大切にしながら豊かな心を育む保育がされていました。こうした取り組みは、保育理念、保育方針を具現化した実践となっており、高く評価されると感じました。

子どもたちの保育を担う職員は、朝の登園時には子どもの目線に合わせて笑顔で迎え、優しく問いかけるように挨拶をされていました。保護者からの伝達事項はいち早くパソコンソフトに記録し、職員間で適切に情報共有を行い、長時間保育が必要な子どもたちの様子も、降園時には保護者に伝えられるよう図られていました。また、保育園からの便りは、年間の事業方針をはじめ行事案内や季節ごとのお知らせを読みやすく記載し、伝えたいことがしっかり伝わるように工夫がされていました。全職員が一丸となって、保護者が安心して子どもを預けられる環境づくりに努めていました。

運営面では、保育理念、方針、目標に基づき保育課程が策定されていました。その保育課程には、年3回実施される理事長と職員のヒアリングでの意見と、行事ごとに実施される保護者アンケートでの意見が反映されており、トップダウンとボトムアップが有機的に絡み合った運営がされていました。しかしながら、業務分掌の明確化や研修体制では課題がありました。今後の整備が期待されます。

今後も子どもたち一人ひとりの人間性を大切にする、質の高い保育実践の持続発展に期待いたします。

<p>特に良かった点(※)</p>	<p>I-2-(2) 保育の計画が適切に策定されている。          保育課程は、保育指針や保育理念・基本方針をもとに策定されました。その保育課程に基づき、クラスの担任が年案→月案→週案→日案を立案して保育を実施していました。そして、毎月、実施した保育内容を評価し必要な見直しが行われ、次月の月案に反映されていました。そして、次年度の保育課程等は、毎月実施する月案等の評価見直しの積み重ねと、職員会議において職員間で検討された事項のほか、アンケートを通じて得た保護者からの意見を取入れて策定されていました。</p> <p>II-3-(1) 地域との関係が適切に確保されている。          地域との交流を広げるため、祭りや夕涼み会等を開催するとともに、子育てステーション事業や子育て相談など、保育園の機能を地域に還元していました。また、保育園の事業として永年にわたり日本太鼓やマーチングに取り組み、舞鶴港での歓迎セレモニーをはじめ地域からの要請には積極的に応えるなど、地域とのかかわりを大切にされていました。</p> <p>IV-1-(1) 健康管理・食事          年間の食育計画が作成され、計画に沿った保育が実施されていました。食育では、地域でとれる野菜や魚、子どもたちが育てた作物を材料として給食やおやつを提供し、食の楽しさや感謝する心を育むなど、子どもたちの心身の成長に活かされていました。そして、日々の献立は、季節感のある旬の素材を取り入れ、おやつも含めて手作りの食事が提供されていました。さらに、子どもたちの喫食状況を把握し、食べにくい食材は食べやすいように工夫した献立を作成するなどの配慮がされていました。</p>
<p>特に改善が望まれる点(※)</p>	<p>I-3-(1) 管理者の責任が明確にされている。          施設長等の役割や責任を規定した分掌規程が整備されていましたが、職員に周知はされていませんでした。組織での指示系統や業務分掌の明文化は、適切なトップダウン、ボトムアップとともに必要なことと考えます。明文化を検討されてはいかかでしょうか。</p> <p>II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。          職員研修は体系的に整備され、計画的に実施されています。また、外部から案内のある研修は、回覧により職員に周知され希望により派遣する仕組みがありました。その研修派遣は、計画により偏りが出来ないよう考慮されていましたが、定期的に研修計画を評価、見直しする仕組みは確認できませんでした。保育園として考える職員の将来像と、職員自らが望む将来像の摺合せを行い、両者が一致した方向性を持つことは、職員育成に必要なことと感じます。その上で、職員育成に必要な研修に派遣し、研修受講後の評価や見直しを実施していくことが、職員の資質向上に繋がると感じます。</p>

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

# 京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

---

## 【保育所版】

# 評価結果対比シート

---

受診施設名	相愛保育園
施設種別	保育所
評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」
訪問調査日	2013年3月12日

保育所評価基準 対比シート

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
I-1 保育の理念・基本方針・目標	I-1-(1) 保育の理念、基本方針・目標が確立されている。	① 保育の理念が明文化されている。	A	A
		② 保育の理念に基づく・基本方針・保育目標が明文化されている。	A	A
	I-1-(2) 保育の理念、基本方針・目標が周知されている。	① 保育理念・保育方針・保育目標が職員に周知されている。	A	A
		② 保育理念・保育方針・保育目標が利用者等に周知されている。	A	A
I-2 計画の策定	I-2-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 中・長期計画が策定されている。(非該当)	非該当	非該当
	I-2-(2) 保育の計画が適切に策定されている。	① 保育課程が保育理念・保育方針・保育目標に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して編成されている	A	A
		② 保育課程と年間指導計画、短期指導計画との整合性が図られている。	B	A
		③ 指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき改定されている。	B	A
		④ 保育課程の編成や指導計画の作成が組織的に行われている。	B	A
		⑤ 保育課程・指導計画が職員や利用者等に周知されている。	A	A
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-(1) 管理者の責任が明確にされている。	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明されている。	B	B
		② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	A	A
	I-3-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	B	B
		② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	B	A
【自由記述欄】				
I-1-(1)	①②法人・保育園の理念・基本方針、それに基づく保育目標が明文化され、ホームページ等に記載されていた。			
I-1-(2)	①毎年度初めに開催される職員会議において、理念、基本方針、保育目標を確認するとともに、就業規則等の読み合わせを行っている。 ②理念・基本方針は、入園説明会で入園のしおりをもとに説明されるとともに、クラス懇談会や4月発行の園だより等で周知されていた。			
I-2-(2)	①②保育課程は、保育指針や保育理念・基本方針をもとに策定されていた。また、クラス懇談会等で聴取した保護者からの意見を考慮して保育課程が策定されていた。 ③クラス担任が保育課程に基づき、年案→月案→週案→日案を立案して保育を実施していた。そして、毎月、実施した保育内容を評価し必要な見直しを行い、次月の月案に反映していた。 ④保育課程等は、毎月実施する月案等の評価・見直しの積み重ねと、職員会議において職員間での検討をもとに策定されていた。また、保護者にアンケートを実施して、その意見を反映させていた。 ⑤保育課程等は年度初めの会議で職員に配布し、説明がされていた。保護者には年度初めに配布するとともに、4月発行の園だよりに掲載し、月ごとに発行される園だよりには月ごとの目標を掲載していた。			
I-3-(1)	①施設長等の役割や責任を規定した分掌規程が整備されていたが、職員に周知はされていなかった。 ②年度当初の職員会議において、全職員で就業規則の読み合わせを行い、職員として遵守すべき法令等の理解に努めていた。			
I-3-(2)	①保育サービスの質向上について、日常的に職員からの意見を聞く機会を設けていた。現在、副園長、主任が欠員となっており、組織的な指導体制が確立できない状況にあった。 ②理事長、施設長、事務担当職員が、適切に役割分担を行い効率的な経営が実施されていた。定期的に経営状況やコストバランスの分析を行い、必要に応じた改善がされていた。			

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果		
			自己評価	第三者評価	
II-1 経営状況の把握	II-1-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	A	A	
II-2 人材の確保・養成	II-2-(1) 人事管理の体制が整備されている。	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	A	A	
		② 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	A	A	
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	② 職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	A	A	
		II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	B	A
			② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	A	A
	③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	A	B		
II-2-(4) 実習生の受け入れが適切に行われている。	① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	A	A		
	② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。	A	A		
II-3 地域との交流と連携	II-3-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	A	A	
		② 事業所が有する機能を地域に還元している。	A	A	
		③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	B	A	
	II-3-(2) 関係機関との連携が確保されている。	① 必要な社会資源を明確にしている。	A	A	
[自由記述欄]					
II-1-(1)	①舞鶴市の保育園長会に出席して情報交換を行うとともに、市役所へ出生数の動向を問い合わせるなど、積極的に経営状況を把握していた。また、待機児童がほとんどなくなっている状況下で、いままで培ってきた事業を継承し「安心して預けられる保育園」を目指すなど、今後の経営ビジョンが明確にされていた。				
II-2-(1)	①法人理念に必要な人材像を明文化している。経験者と新任者を組み合わせ教育を行うことで、求める人材像への育成を実施していた。				
II-2-(2)	①年3回、所定の様式による自己評価をもとに、園長と職員のヒアリングが実施されていた。ヒアリングでは、担当した年齢層や保育に対する考えを聞き、職員からの意見で保育運営等で必要がある事項は、積極的に取り入れていた。 ②京都府民間社会福祉施設職員共済会への加入や、保育士の仕事特性に配慮して頸腕・腰痛検診を行うなど、職員の福利厚生に努めていた。				
II-2-(3)	①②職員研修は体系的に整備され、計画的に実施されていた。また、外部から案内のある研修は、回覧により職員に周知され希望により派遣する仕組みを確認した。 ③各職員の外部研修への参加は、計画により偏りが出ないよう考慮されていたが、定期的に研修計画を評価、見直しする仕組みは確認できなかった。				
II-2-(4)	①②実習生の受け入れは、保育士の後継者育成という理念を持ち、職員全員がその意義を理解した上で実施されていた。実習生受け入れに関するマニュアルを整備していた。				
II-3-(1)	①地域との交流を広げるため、祭りや夕涼み会等を開催していた。また、保育園の事業として永年にわたり日本太鼓やマーチングに取り組み、舞鶴港での入港セレモニーをはじめ地域からの要請には積極的に応えるなど、地域とのかかわりを大切にしていた。 ②子育てステーション事業や子育て相談など、保育園の機能を地域に還元していた。 ③保育園に対する理解を深めてもらうため、中高生をはじめボランティア受け入れを積極的に行っていた。受け入れマニュアルを整備して、全職員に周知徹底していた。				
II-3-(2)	①舞鶴市内の子育て機関や児童相談所等、必要な社会資源の情報は共有されていた。				



Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-1(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	① 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	A	A
	Ⅲ-1-1(2) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	① 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	A	A
		② 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	A	A
Ⅲ-2 サービスの質の確保	Ⅲ-2-1(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	① 定期的に第三者評価を受診し、事業内容の改善に活かしている。	A	B
		② 定期的に自己評価を行い、その結果と課題を職員間で共有し、改善に向けた取り組みを行っている。	A	A
	Ⅲ-2-1(2) サービス実施の記録が適切に行われている。	① 入園面接・健康診断など定められた手順に従ってアセスメントを行っている	A	A
		② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	A	A
		③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	A	A
	Ⅲ-3 サービスの開始・継続	Ⅲ-3-1(1) サービス提供の開始が適切に行われている。	① 利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	A
② 保育の開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。			A	A
Ⅲ-3-1(2) サービスの継続性に配慮した対応が行われている。		① 転園・卒園にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	A	A
[自由記述欄]				
Ⅲ-1-1(1)	①プライバシー保護に関するマニュアルを整備していた。職員へは、誓約書を聴取することにより意識づけしていた。ホームページ等に掲載する写真等は、必ず事前に保護者から承諾を得ていた。			
Ⅲ-1-1(2)	①苦情解決に関するマニュアルを整備して、苦情等の受付担当者等を周知していた。また、実際に意見や苦情等があった場合は、マニュアルに基づき迅速に対応されていた。 ②保護者からの「意見」や「要望」は、玄関に設置している意見箱と、行事ごとにアンケートを実施して広く拾い上げる仕組みがあった。保護者から出された意見等は、事業計画等や運営面に反映するとともに、園だより等で公表されていた。			
Ⅲ-2-1(1)	①前回、平成19年度に第三者評価を受診しており、課題となっていた事項については職員会議で全職員による話し合いで検討改善していた。意見が述べにくい職員は、個人のパスワードでパソコンから意見を入力できる仕組みが取られていた。 ②毎年、「保育士の自己点検、自己評価の為にチェックリスト」を使用して、全職員による自己評価を実施していた。			
Ⅲ-2-1(2)	①アセスメントに関する手順が組織として定められており、パソコンソフトにより適切に記録されていた。また、子どもの状況等に変化があった場合はその都度、そのほかの場合は1年に1度アセスメントの見直しがされていた。 ②記録の管理については、保管、保存、廃棄について明記された管理規程により管理されていた。 ③園児一人ひとりの発達状況や問題等は、職員会議で検討され対応していた。検討された内容は、パソコンソフトを利用して全職員間で情報の共有化が図られていた。			
Ⅲ-3-1(1)	①ホームページを開設し、行事ごとに新しい情報が提供されていた。また、市役所にパンフレットを配架するとともに、子育てステーション事業を通して体験見学を受け入れる等、必要な情報を提供していた。 ②園の方針や年間行事等がわかりやすく書かれた「入園のしおり」を配布し、利用料が必要な事項を含め説明がされていた。保育の利用にあたっては、説明した内容を書面にまとめ保護者より同意を得ていた。			
Ⅲ-3-1(2)	①転園時は引継書を作成していた。卒園については、児童要録を作成し就学先へ送付するとともに、個別支援が必要な園児には、園長が連携の窓口となり小学校と連絡会をもち必要な情報提供に努めていた。			

IV-1 子どもの発達援助

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-1 子どもの発達援助	IV-1-(1) 健康管理・食事	① 登所時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している	A	A
		② 健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		③ 歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		④ 感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者、全職員に通知している	A	A
		⑤ 食事を楽しむことができる工夫をしている	A	A
		⑥ 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている	A	A
		⑦ 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している	A	A
		⑧ アレルギー疾患をもつ子どもに対し、専門医からの指示を得て、適切な対応を行なっている	A	A
	IV-1-(2) 保育環境	① 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している	A	A
		② 生活の場に相応しい環境とする取り組みを行なっている	A	A
	IV-1-(3) 保育内容	① 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている	A	A
		② 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している	A	A
		③ 子どもが自発的に活動できる環境が整備されている	B	B
		④ 身近な自然や社会とかがわかるような取り組みがなされている	A	A
		⑤ さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている	B	A
		⑥ 遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している	A	A
		⑦ 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てよう配慮している	A	A
		⑧ 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している	A	A
		⑨ 乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	B	A
		⑩ 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A	A
		⑪ 障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる	A	A

[自由記述欄]

IV-1-(1)	<p>①子どもの健康管理はマニュアルがあり、全職員が把握していた。保育園内の情報はパソコンで管理しており、1日の登園時の状態や子どもの体調がすぐれないときの状況など、全職員が共有できる環境にあり、保護者との連携も速やかにとれるようになっていた。</p> <p>②健康診断の結果は全職員で把握し、保護者には健康手帳により報告がされていた。また、アレルギーや喘息など、子どもの状況に応じて保育への配慮がされていた。</p> <p>③歯科健診の結果は、保護者に健診結果とともに治療が必要な場合は依頼書を配布していた。毎週月曜日の朝会では、子どもたちに健康について話をし、子どもたちに健康な体づくりを意識づけていた。</p> <p>④感染症に関するマニュアルが整備されていた。熱中症予防のため水筒の持参を保護者に依頼し、十分な水分補給できるよう留意されていた。</p> <p>⑤年間の食育計画が作成され、保育に反映されていた。食育では、地域でとれる野菜や魚、子どもたちが育てた作物を材料として、給食やおやつを提供し、食の楽しさや感謝することなど、子どもたちの心身成長に活かされていた。</p> <p>⑥日々の献立は、季節感のある旬の素材を活かした食材を取り入れ、おやつを含めて手作りの食事が提供されていた。また、子どもたちの喫食状況を把握し、食べにくい食材は食べやすいように工夫した献立を作成するなどの配慮がされていた。</p> <p>⑦乳児の自宅での食事の様子は、連絡ノートを通じて状況を把握し、保育園での食事に配慮していた。3歳～5歳児では給食参観を実施して親子で会食をして、保育園での食事の状況を知らせていた。</p> <p>⑧アレルギーがあり除去食が必要な子どもには、専門医の指示のもと、献立を作成し安全な食事を提供されていた。</p>
IV-1-(2)	<p>①遊具や砂場は月1回定期的に消毒がされ、夏季には砂場はUVテントによって直射日光を避けるなど、子どもが安心して遊べる環境を整えていた。また、毎月1回定期的に遊具の安全点検を行い、改善が必要な場合は迅速に対応されていた。</p> <p>②子どもの生活環境に関しては、安心できる空間の確保と個別への対応に工夫がされていた</p>

IV-1-(3)	<p>①日々の保育での決め事や行事の役割など、子どもたちに関わることは、まず子どもたちから意見や希望を聞き、そのことを尊重した上で適切な判断をするよう努めていた。子どもたち一人ひとりを受容するよう、保育園全体で取り組んでいた。</p> <p>②基本的な生活習慣や生理現象については、子どもの状況にあわせてゆっくり見守る保育がされていた。</p> <p>③自由遊びの時間は、玩具や遊具を用意し子どもたちが自ら遊びたいと考えることが出来るよう配慮されていた。しかし、常時好きな遊びが出来るコーナーの設置等は確認できなかった。</p> <p>④うさぎの飼育を通じて小動物とふれ合う機会を作っていた。また、お泊り保育や遠足では、鉄道やバスを利用して社会体験をする機会を作っていた。</p> <p>⑤幼児クラスでは、クレヨンや紙、のりやハサミを自由に使って、子どもたちが自らを表現できる環境があった。また、リズムを取り入れて身体を使って表現活動ができるよう配慮されていた。</p> <p>⑥遊びや生活で集団遊びや役割りを通して人間関係を育てる工夫や、異年齢児との遊びの中で思いやりの気持ちを持てるよう配慮されていた。</p> <p>⑦生活発表等を通して自分の意見が言えるような機会が設けられ、子どもの意見が尊重される保育が実施されていた。</p> <p>⑧名簿等の作成に配慮する等、性差への固定観念を植え付けないよう配慮していた。</p> <p>⑨乳児保育については、子ども一人ひとりの状況に応じて保育がされていた。</p> <p>⑩長時間に渡る保育が必要な子どもは、異年齢児と関わりを持つなど、自然な状況で家庭的な雰囲気を感じられるよう配慮されていた。</p> <p>⑪障害がある子どもを保育する場合は、対象児に合った指導計画を立案し実践する仕組みがあった。</p>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



IV-2 子育て支援

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-2 子育て支援	IV-2-(1) 入所児童の保護者の育児支援	① 一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行なっている	A	A
		② 家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている	A	A
		③ 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている	A	A
		④ 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに所長まで届く体制になっている	A	A
		⑤ 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている	A	A
		⑥ 子どもの発達記録やケア記録、保育要録など保育に必要な記録が整備され、保育内容（指導計画）や小学校など専門機関との連携に活かされている。	A	A
	IV-2-(2) 一時保育	① 一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている	A	A
[自由記述欄]				
IV-2-(1)	①連絡帳により保護者とは日常的な情報交換を行っている。また、必要に応じて個人面談を実施することともに、子育ての相談等は随時受ける仕組みが構築されていた。 ②育児支援が必要な保護者とは、連絡ノート等で連携を図りながら支援がされている。又、家庭環境に変更が生じたり、気になることがあれば、パソコンソフトのケア経過に記録され、全職員で共有できるように図られていた。 ③保育や給食参観を通じて保護者との共通理解を図るとともに、育児講演会を実施して子育ての不安等に対応されていた。 ④⑤虐待に対するマニュアルが整備されるとともに、研修会を実施して虐待を未然に防ぐための取り組みがされていた。虐待が疑われる場合は、マニュアルに沿って速やかに福祉事務所に連絡するよう周知されていた。 ⑥子どもの発達の記録は、パソコンソフトを利用して詳細に記録をして、全職員で情報共有がされていた。保育要録が整備され、支援が必要な場合は関係機関と連携を図り、保幼小連絡会議を通じて情報共有が図られていた。			
IV-2-(2)	一時保育の状況に応じて臨時職員を雇用する等、子ども一人ひとりの状況に応じた対応がされていた。			

IV-3 安全・事故防止

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-3 安全・事故防止	(1) 安全・事故防止	① 調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている	A	A
		② 食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については、全職員にも周知されている	A	A
		③ 事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取り組みを行っている	A	A
		④ 事故や災害の発生時に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	A	A
		⑤ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	A	A
[自由記述欄]				
IV-3-(1)	①衛生管理に関するマニュアルを整備して、清潔保持に努めていた。また、マニュアルに沿ってチェックリストを活用していた。 ②食中毒の発生時対応マニュアルが整備され、見直しが行われていた。職員会議を利用して、様々な対応方法に関する研修が行われていた。 ③全園児が集う朝会において、子ども安全ニュースを活用して交通防犯に関する啓発がされていた。また、乳児の事故防止に関する研修会を実施するなど、事故防止に関する具体的な取り組みがされていた。 ④事故や災害に関するマニュアルを整備して、事故防止等に努めていた。また、自衛消防隊を組織するとともに、毎月1回避難訓練が実施されていた。 ⑤不審者に関するマニュアルが整備されていた。監視カメラ17台設置、玄関には電子ロックによる厳重な防犯システムが導入され、安全確保に努めていた。			